



## POTENZA 勢が好パフォーマンス！

中山選手が4位、堤選手がファストラップを獲得

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の開幕戦が、5月11-12日に宮城県のスポーツランド SUGO で開催されました。

プロフェッショナルシリーズの予選では、POTENZA RW007 ユーザーの#121 蒲生尚弥選手 (POTENZA) が、1'35.741 のタイムで5番グリッドを獲得。続いて#18 中山雄一選手 (POTENZA) が8番グリッド、#160 吉田広樹選手 (POTENZA) が9番グリッドをそれぞれ獲得しました。13周で行われた決勝では、POTENZA RE-09D ユーザーが、RE-09D のロング性能の高さを活かして、各ポジションで激しい争いを繰り広げました。蒲生選手が#123 松井孝允選手と激しい4番手争いを繰り広げるなか、後方からポジションを上げてきた中山選手が2台の争いの隙をついて、5番手にポジションアップ。さらに終盤、松井選手をもかわして、4位でチェッカーを受けました。

蒲生選手は、最終コーナーの立ち上がりで松井選手をかわし、5位でチェッカー。

吉田選手、#34 佐々木雅弘選手 (POTENZA) も、それぞれ順位を上げ8位と10位でチェッカーを受けました。

昨シーズンの勢いそのままに練習走行から速さを見せていた#7 堤優威選手 (POTENZA) は、予選での走路外走行が響き (予選27位)、21位でチェッカー。しかし、決勝ではファストラップ (1'36.555) を記録し、1ポイントを獲得しました。

### Driver's Comments



#### #18 中山 雄一選手 「RW007のおかげでタイヤを上手にマネジメントできた」

決勝は、後半の7周目あたりから勝負を仕掛けられればと考えていました。同じRE-09DとRW007を履く蒲生選手が前にいたので、抜くのは難しいかな？と思っていたのですが、蒲生選手が前方で4位争いをしている隙をついて前に出ることができました。5位を目標に走っていたので、4位という結果は上出来だと思います。

スポーツランド SUGO の最終コーナーは日本一リアに荷重がかかるコーナーですが、RW007 は剛性が高いので、最後まで、左リアのグリップが落ちることがなかったです。ホイールのおかげでタイヤを上手にマネジメントできたことが、今回の結果につながったと思います。

#### #7 堤 優威選手 「タイヤのポテンシャルをRW007が引き出してくれる」

RW007とRE-09Dの組み合わせは、スポーツランド SUGO の路面とのマッチングが良く、最終コーナーでは、ホイールとタイヤの剛性の高さがアドバンテージとなって、決勝中のバトルでも楽に前に出ることができました。決勝でファステストが取れたことで、RE-09Dのポテンシャルをホイールがしっかりと引き出してくれることを確認できました。予選では失敗してしまいましたが、上位のタイムを狙えるポテンシャルがあると感じました。今回、速さはある程度証明できたので、今後もRW007の性能を最大限引き出して、タイトルを狙っていききたいと思います。





# 堤選手、今季初表彰台!

## SUGOに続き、POTENZA 勢が高パフォーマンス



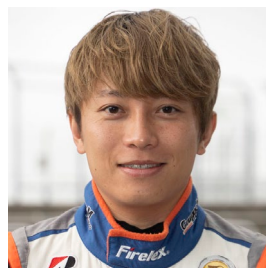
TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の第 2 戦が、6 月 16 日に大分県のオートポリスで開催されました。今回は、午前中に予選を行い、午後決勝を戦うワンデーレースでした。

POTENZA RW007 ユーザーの最上位は、2 位表彰台を獲得した #7 堤優威選手 (POTENZA)。予選は、フィーリングこそ良かったものの 6 番手と、上位を狙うには厳しい結果となった堤選手でしたが、決勝では、RW007 の蹴り出しの良さを活かして、スタートで一気に 4 番手にまで順位を上げると、1 コーナーの混乱を巧みに制して、2 位まで浮上。その後も安定した走りで、今シーズンの自身初表彰台を獲得しました。

また、4 位入賞を果たした #121 蒲生尚弥選手 (POTENZA) も、7 番グリッドスタートから、開幕に続いて決勝で大きく順位を上げてのチェッカーとなりました。そのほか、予選 14 位の佐々木雅弘選手 (POTENZA) は 12 位、16 位スタートの中山雄一選手 (POTENZA) は 11 位チェッカーと、多くの RW007 ユーザーが決勝でポジションアップを果たしました。

### Driver's Comments

#### #7 堤 優威選手「高荷重のところでボトムスピードを上げられた」



#7 堤 優威選手

スタートでは、RW007 の蹴り出しの良さを活かせたことで、一気にポジションを上げることができました。オートポリスでは、RW007 の剛性の高さのおかげで、100R やジェットコースター後の右コーナーなど、高荷重のところでボトムスピードを上げられたことが武器になりましたね。

#### #121 蒲生 尚弥選手「車の安定感やタイヤのレスポンスをしっかりと感じ取れた」

RW007 の高い剛性のおかげで、オートポリスのような中速コーナーが多いサーキットでも、車の安定感やタイヤのレスポンスをしっかりと感じ取ることができました。決勝では 1 コーナーの混乱をうまく切り抜け、その後も安定した走りができたことで、4 位でフィニッシュすることができました。

#### #18 中山 雄一選手「RW007 は非常にコントロールラブルなホイール」

オートポリスの登りセクション（セクター 3）では、特にリアタイヤに高い荷重がかかりますが、タイヤとホイールが歪まないことで、しっかりとタイヤのグリップを感じることができました。そのおかげで、決勝ではタイヤを守りつつ、ピークパフォーマンスに持っていくことができたと思います。RW007 は非常にコントロールラブルなホイールですね。

#### #7 佐々木 雅弘選手「RW007 はセッティングの余計な迷いを軽減してくれる」

RW007 は剛性が高いため、タイヤの内圧の感度が管理しやすく、セッティングにおける余計な迷いを軽減してくれます。どんなコースでも、剛性の高いホイールを使用することで内圧に集中できます。この迷いの少なさは RW007 の強みのひとつだと思います。







## 中山選手が今季初の3位表彰台!

ダブルヘッダーの最後まで好パフォーマンスを発揮したRW007

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の第3戦、第4戦が、7月13-14日に静岡県の富士スピードウェイで開催されました。今回は、レースウィーク中に2度の決勝レースを戦うダブルヘッダー(1大会2レース制)でした。予選でのベストタイムが第3戦のグリッドを決定し、セカンドベストで第4戦のグリッドを争います。

POTENZA RW007 ユーザーの予選最上位は、#7 堤優威選手(POTENZA)。ドライコンディションからウェットという難しい流れの中でのアタックとなりましたが、堤選手はウェット寄りのセッティングで、ベストタイムで6位、セカンドベストで11位という結果でした。続く#18 中山雄一選手(POTENZA)は、ベストタイムが14位、セカンドベストが3位、#160 吉田広樹選手(POTENZA)は、ベストタイムが9位、セカンドベストが6位となりました。

決勝レースはそれぞれ10周で行われました。日曜日の午前中に開催された第3戦は、予選と同じくドライスタートからウェットでのフィニッシュという難しいコンディションの中、堤選手がポジションを一つ上げて5位フィニッシュ。6位には吉田選手が続き、10位には24番グリッドから大きくポジションを上げた#87 久保凜太郎選手(POTENZA)が入りました。#34 佐々木雅弘選手は13位、中山選手が15位という結果でした。POTENZA RE-09D ユーザーが、ロング性能の高さを活かして、各ポジションで激しい争いを繰り広げました。

午後に開催された第4戦は、完全なドライコンディション。3番手のポジションを最後まで守り切った中山選手が、今シーズン初となる3位表彰台を獲得。吉田選手が5位、堤選手が10位という結果になりました。

1大会2レースというロングステントで、POTENZA RW007とPOTENZA RE-09Dの組み合わせが、最後まで競争力のあるパフォーマンスを発揮する結果となりました。

### Driver's Comments



#### #18 中山 雄一選手「RW007の高い剛性がしっかり足下を支えてくれる」

富士スピードウェイの100Rは、左リアにかかる荷重が日本一高いのではないかと思います。RW007の高い剛性のおかげで、タイヤのたわみが減少し、接地離れが少なくなっていると感じます。ヘアピンでも同様に、荷重がかかってもしっかりとしたトラクションが得られました。ホイールがしっかり足下を支えているおかげで、エンジンのパワーをしっかりと活かせると感じました。

#### #7 堤 優威選手「トラクションをかけた時に実感する剛性の高さ」

RW007は剛性が高いので、富士のセクター3のようなテクニカルセクションで、トラクションをかけたときに前に進む力を強く感じられました。最終コーナーの立ち上がり良かったことで、レース中に他車をパスすることができましたし、逆に抜かれないことも多かったので、大きなアドバンテージだったと思います。







## 中山選手が2戦連続表彰台!

POTENZA勢が躍動! 堤選手3位、蒲生選手も上位入賞

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の第 5 戦が、8 月 24-25 日に北海道の十勝スピードウェイで開催されました。

POTENZA RW007 ユーザーの予選最上位は、2 戦連続で表彰台獲得の #18 中山雄一選手 (POTENZA)。予選で 1'32.899 のタイムを記録し 3 番グリッドを獲得すると、決勝で見事なスタートを決めて、1 コーナーで 2 番手にまで浮上。終盤はトップに追いつく展開でしたが、同じタイミングで SC が導入されたため逆転には至らず 2 位でチェッカーを受けました。

3 位には予選で 4 番手の #7 堤優威選手 (POTENZA)、6 位にはポジションを 3 つ上げた #121 蒲生尚弥選手 (POTENZA) が入賞しました。デビュー戦となった POTENZA RE-10D と POTENZA RW007 の組み合わせが、十勝でも競争力のあるパフォーマンスを発揮しました。



### Driver's Comments

#### #18 中山 雄一選手「高剛性の RW007 で十勝の段差も安定して走行できた」

十勝スピードウェイは、コーナーの R が大きく、ブレーキを残していくトレイルブレーキングが必要なコーナーが多いです。POTENZA RW007 は非常にリニアで、大きな荷重がかかっても負けることがないですし、荷重が薄くなっていくところでもしっかりとっていてヨレがなく、コントロールがしやすいです。そのおかげで、タイヤのたわみにだけ集中できるので、大きなアドバンテージとなりました。また、十勝はコースに段差があるのですが、ここでも RW007 の高剛性のおかげで安定した走行ができました。

予選は、前日までの走行とコンディションが大きく変わった中でのアタックでしたが、うまくまとめることができたと思います。決勝ではスタートが全車の中で一番良かったのではないかな? (笑)

SC が出なければ最後の 2 周くらいでトップに追いつけた感触がありましたが、ラスト 1 周だけでは抜くところまではなかなか難しかったです。POTENZA RE-10D を使い始めてまだ 1 戦目なので、さらに RE-10D のポテンシャルを引き出して頑張りたいと思います。

#### #7 堤 優威選手「トラクションの向上を感じる RW007 の高剛性 × RE-10D」

ニュータイヤ POTENZA RE-10D が導入されたことで、内圧や足回りのセッティングが変わり、厳しい戦いを予想していました。

RE-10D は、低速コーナーでの回り込みが良くなり、POTENZA RW007 の高剛性によって、立ち上がりでアクセルを踏んだ際のトラクションが向上していると感じました。

予選は、路温が想像以上に上がったので、うまくまとめたドライバーが勝つという状況でした。自分はドライビングである程度まとめることができましたが、タイヤのグリップはまだまだある感覚なので、今後さらに調整が必要だと感じています。

#### #121 蒲生 尚弥選手「高荷重のコーナーで感じる RW007 の剛性の高さ」

十勝スピードウェイは、低速コーナーが少なく、ほぼ 3 速のコーナーが多いのですが、RW007 は剛性が高いので、高荷重のコーナーでの蹴り出しや踏ん張りが良かったと感じました。

今回、新しいタイヤを初めて使用しましたが、これまでのタイヤ同様に、違和感はなく使うことができました。特に一発のタイムやロングランの性能が向上している印象でした。

予選では、占有走行からコンディションが大きく変わり、思うような結果が出ませんでしたが、決勝のペースは良かったと思うので、次戦以降は予選をより重視して臨みたいと思います。





## 吉田選手が今季初の2位表彰台！

RW007 と RE-10D のマッチングで POTENZA 勢が高パフォーマンス

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の第6戦が、9月14-15日に岡山県の岡山国際サーキットで開催されました。POTENZA RW007 ユーザーの最上位は、8番グリッドから見事な追い上げで、今シーズン自身初の表彰台となる2位を獲得した#160 吉田広樹選手 (POTENZA)。#18 中山雄一選手 (POTENZA) と #121 蒲生尚弥選手 (POTENZA) が共にポジションを4つずつ上げ、それぞれ5位と6位に入賞しました。

ニュータイヤ POTENZA RE-10D と POTENZA RW007 の組み合わせが、多くのオーバーテイクを生み出し、その高い競争力を披露しました。

### Driver's Comments

#### #160 吉田 広樹選手「RW007 と RE-10D のポテンシャルを存分に活かした」



決勝では、序盤にファステストラップを獲得できたことで、その後の追い上げに自信を持って臨むことができました。RW007 と RE-10D の組み合わせは、マッチングが良く、トラクションが良いので、バックストレートで何度も仕掛けることができました。

レースは後半に合わせたセッティングにしていたのですが、正直、2位のポジションまで追い上げられるとは思っていませんでした。目の前の一台一台をいかにフェアに抜いていくかに集中しました。RW007 と RE-10D のポテンシャルを存分に活かしたレースだったと思います。

#### #18 中山 雄一選手「グリップ力が高い RW007 と RE-10D のマッチング」

5列目からのスタートでしたが、RW007 と RE-10D のマッチングはグリップが高く、1周目を大きな混乱に巻き込まれることなく、無事切り抜けることができました。2周目にファステストラップを狙ったのですが、アタックした分、後半の余力がなくなっていましたね。RW007 は剛性が高く、コースで最も荷重がかかるバックストレート前のコーナーでのトラクションが良いので、ライバルより早くアクセルを踏むことができ、最後のブレーキングで勝負できたことが順位を上げられた要因だと思います。

#### #121 蒲生 尚弥選手「RE-10D のパフォーマンスを引き出してくれる RW007」

予選では自分のミスで順位を落としてしまいましたが、決勝では低速コーナーから高速コーナーまで RW007 が RE-10D のパフォーマンスをしっかりと引き出してくれたおかげで、申し分のない走りができたとと思います。今回の決勝での走りを次戦に繋げていきたいと思っています。





## 蒲生選手が今季初の2位表彰台！

堤選手が3位表彰台。POTENZA 勢が高いポテンシャルを発揮！

三重県の鈴鹿サーキットで10月5日～6日に開催された TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024 の第7戦で、POTENZA RW007 ユーザーの#121 蒲生尚弥選手（POTENZA）が、2位表彰台を獲得しました。

蒲生選手は予選で2'26.020を記録し2番グリッドを獲得。決勝でも終始安定したペースでポジションをキープすると、今シーズン自身初の表彰台を獲得しました。

さらに3番手からスタートした#7 堤優威選手（POTENZA）が3位表彰台を獲得。また、#87 久保凜太郎（POTENZA）と#18 中山雄一選手（POTENZA）がそれぞれ6位と7位に入賞しました。

第7戦は、金曜日までの雨の影響で、前戦十勝でデビューした POTENZA RE-10D のドライコンディションでの十分なテストができない中での予選・決勝となりましたが、POTENZA RW007 と POTENZA RE-10D の高いポテンシャルを証明する結果となりました。

### Driver's Comments



#### #121 蒲生 尚弥選手「蹴り出しやハンドル操作時の反応がしっかりしている」

決勝ではスタートを含めミスなく走ることができました。自分の力を出し切れたかなと思います。

1周目、2周目はトップの選手のペースが速く、最終的にそのギャップを埋めることができませんでした。今回はドライでの準備が十分にできないという難しい状況でしたが、その中でも2位表彰台を獲得できたことは非常に良かったと思います。鈴鹿は路面のミューが高く、タイヤやホイールにかかる入力大きいサーキットですが、RW007とRE-10Dは、蹴り出しやハンドル操作時の反応がしっかりしているので、とても良かったと感じています。

#### #7 堤 優威選手「切り返しからの立ち上がりやトラクションの良さに感じるアドバンテージ」

今回はマシンを変更して挑みましたが、ドライでのテストができていなかったこともあり、厳しい戦いとなりました。予選一発のタイムはなんとか出せたものの、決勝でのペースは掴みきれませんでした。そんな厳しい状況の中で表彰台を獲得できたことはポジティブだと思います。鈴鹿では、S字の切り返しからの立ち上がりやトラクションの良さにおいて、RW007とRE-10Dのアドバンテージを感じました。このレースを糧に、次戦のもてぎでの最終戦も頑張りたいと思います。

#### #18 中山 雄一選手「ブレーキングからターンインで自信をもってアプローチできた」

予選で8位と厳しいポジションだったこともあり、決勝では終始バトルを強いられる展開となりました。RW007とRE-10Dは、ブレーキングからターンインの際に自信を持ってアプローチできたので、そこから攻め込むことができました。

順位を守るために必死に走っていたのですが、ブレーキングには自信があったので遅れを取ることなく、果敢に飛び込むことができました。その結果、順位をキープすることに繋がったと思います。



# 最終戦でも証明された POTENZAの高いポテンシャル！

堤選手、6 位入賞！ 久保選手 7 位、中山選手 8 位。

栃木県のもてぎモビリティリゾートもてぎで11月23～24日に開催されたTOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2024最終戦(第8戦)。POTENZA RW007 ユーザーの最高位は、6 位入賞の #7 堤 優威選手(POTENZA)でした。

堤選手は予選で 2'11.787 をマークして 6 番グリッドからスタートすると、安定した走りポジションを守り抜きました。

決勝のファステストラップ(2'12.330)は、予選 9 位から 8 位に順位を上げた #18 中山 雄一選手(POTENZA)が記録。さらに、#87 久保 凜太郎選手(POTENZA)は予選 12 位から決勝で 7 位まで順位を上げる見事な追い上げを見せました。

今シーズンを通して、POTENZA RW007 と POTENZA RE-10D のポテンシャルの高さが改めて証明され、最終戦も多くの観客を魅了するレースとなりました。

## Driver's Comments



### #7 堤 優威選手「高荷重でも安定感が高く好タイムに繋がった」

占有走行でトラブルがあり、ほとんど走れなかったのが、空気圧のセットなど正確に把握できない部分もありましたが、中山選手の占有走行データやウォームアップでのスピードを参考にして何とか形にすることができました。もてぎは昨年のスーパー GT で勝利を収めた個人的には得意なコースです。これまでは夏場の開催で苦戦していましたが、今回は自分のドライビングをうまく合わせることができましたね。

POTENZA RE-10D と POTENZA RW007 の高い剛性は、高荷重でも安定感が高く、4 コーナーなど、全開区間でしっかりと力を発揮しました。そのおかげで好タイムに繋がったと思います。

ロングのテストがほとんどできないまま決勝に臨んだため、厳しいレースになりましたが、RE-10D ユーザーの中で最上位となる全体 6 位を獲得し、最低限の結果は残せたと思います。

決勝を通じて見てきた課題もあるので、来年に向けてしっかりと改善に取り組み、さらなる結果を目指したいと思います。

### #87 久保 凜太郎選手「RW007 は最高のパフォーマンスを発揮できるホイール」

決勝では、自分のドライビングと POTENZA RW007、POTENZA RE-10D の相性が良く、うまくマッチしていたと感じました。一発の速さという点では、もう少し詰める必要がありますが、RW007 の剛性の高さ、特に縦方向のしっかりした特性によって、タイヤを十分に潰しながら性能を最大限に引き出せました。RW007 は、ドライバーが使いこなせば最高のパフォーマンスを発揮できるホイールだと思います。今後もさらに精進していきたいです。

### #18 中山 雄一選手「縦方向の荷重が横方向に移行する時の RW007 のレスポンスがとても良い」

スタートはうまく決まり、順位を上げることができました。その後の 1 周目では前との差が少し空いていましたが、これならいけると思いしっかりプッシュして、ファステストを記録できました。ここはレースでの強さを発揮できた部分だと思います。しかし、最後の 1 周で久保選手に抜かれてしまい、そこは悔しいところでした。

もてぎは、ブレーキングからターンインにかけてのフロントへの荷重のかかり方が非常に大きいのですが、縦方向の荷重が横方向に移行する際のホイールのレスポンスがとても良いと感じました。特に、1 発目のステアリング操作でしっかりと向きを変えられる点が POTENZA RW007 の大きなアドバンテージだと思います。